ロジスティクス同好会が見学

東京貨物ターミナル駅

貨物駅は彼らの目にどう映ったのか

JR貨物の中でも、東京(タ)は規模の大きな駅だ。東京ドーム16個分の広大な敷地が広がり、フォークリフト24台、トップリフター4台、リーチスタッカー1台の計29台で、1日に約3500個のコンテナを取り扱う。

ロジスティクス同好会がJR貨物の"顔"を見学すると聞き、弊紙記者も同行した。

その前に…ロジスティクス同好会とは何ぞや？

定期的な交流の場を持ち、ロジスティクスについて語り合う―。物流業界にはそれぞれ目的に応じたグループが複数あるようだが、ロジスティクス同好会も任意で集合する人々の交流の場だ。参加資格は、物流分野に身を置き、物流を愛し、楽しく語らえる人。物流の人的ネットワークを築き、かつ互いに切磋琢磨することが目的。ロジスティクス同好会では、会員企業の物流センターやコンテナヤード等への現地見学会も積極的に開催されていて、今回はJR貨物の東京(タ)に白羽の矢が立った。

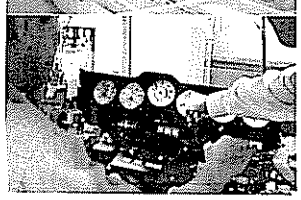
東京(タ)上屋から全体像を把握　その場で質問が飛ぶ

ビデオ撮影後、質疑応答

午後3時、一行はまず、駅本屋屋上から東京(タ)の全体像を把握。中央研修センターへ移動して同駅の概要紹介ビデオを鑑賞した。その後、動力車操縦者（乗務員）養成所で信号システム並びに実習棟（機関車運転シミュレーション）を体験。続いて実際に構内の荷役風景、スーパーレールカーゴ、12m級コンテナを間近で見学した。

物流関係者の目に貨物駅はどう映ったのだろう？

ゼロイン貨物駅 ZERO IN



東京(タ)見学会、どうですか？

「普段入れない構内を見ることができて、貴重な体験だった」「乗務員の研修制度が充実しているのが実感できた」「広さと規模に驚いた。実際に見てみるとイメージと違った」等々の感想。その場で担当者が質問に答えるスタイルも好評だった。

見学前のイメージとギャップも？

「このような一等地に広大な拠点があるという驚き」「ピークではなかったせいか、トラックが列を成していない」「コンテナが方面別に整然と並んでいる」「1日の発着列車が38本と聞き、少ないと感じた」「構内であまり積み替えはせず、コンテナ単位の荷役がほとんどであること」など意外に思うことも様々。

物流施設としては？

コンテナや貨車を見学

「大雑把な感じ。小口混載やデバンニング設備等、物流全般の機能は隣接する運送業者の施設で行われている」「ISO規格の海上コンテナ等に対する設備が不十分」「大型荷役機器は操縦者の技術によるところが大きいようだ」

倉庫業の方からは…

「スペースをいかに使うか、という倉庫業とは全く違う」「もう少し効率的な使い方ができそう。同じ量ならコンパクトに、同じ広さなら取扱量を大きく」

動力車操縦者養成所の見学はどうでしたか？

「模型の走る信号システムと実際の機関車を入れた実習棟は大変興味深いと同時に、安全・安定輸送に力を入れていると感じた」「実際に事故が起きると簡単に復旧できないことやATSの大事さが実感できた」「研修施設の充実と研修制度の厳しさが印象に残った」

この施設見学は非常に人気が高く、鉄道ファンならずとも興味を引かれる。

見学後、「利用運送事業者が入る独特なシステムなので、一般の事業者には敷居が高い」などの声もあったが、最も多かったのは「コンテナ管理に最先端のICタグを使っていること」だ。保守的なイメージが強く「オペレーション設備は古い」鉄道貨物輸送で、「実験段階のものしか見たことがなかったRFIDタグを、実際に運用していることに驚いた」という。

JR貨物では"IT・FRENS&TRACEシステム"により、フォークリフトに付けたアンテナでコンテナのICタグ情報を読み取り、コンテナの所在や作業状況を管理している。

従来使っていた列車予約システムFRENSにIT・FRENSのサーバーを被せ、フォークシステムとドライバーシステムから成るTRACEで駅の情報を一元管理する、というのが概要だ。

このシステムが社外に誇れる先進技術であることを改めて認識できた一方、東京(タ)についての紹介ビデオでは、鉄道貨物輸送の漠然としたイメージを掴むにとどまったようだ。

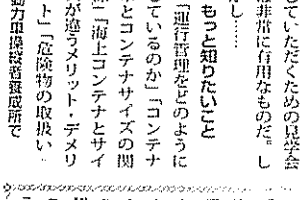
「百聞は一見にしかず」の通り、鉄道貨物輸送を理解していただくための見学会は非常に有用なものだ。しかし……

もっと知りたいこと

「運行管理をどのようにしているのか」「コンテナ車とコンテナサイズの関係」「海上コンテナとサイズが違うメリット・デメリット」「廃棄物の取扱い」事故対応策」「なぜ2段までしか積まないのか」「ICタグを実際に車載端末で見せてほしかった」等コメントも。

親しみの持てる貨物駅もさる事ながら、見学者が見たいのは"意外に使える貨物駅"かもしれない。

「JR貨物さんのPRの場として見学会をうまく、そして積極的に活用されたらよいと思います」



▲動力車操縦者養成所で

編集後記

◆「からくり儀右衛門」こと田中久重の故郷・久留米駅前にある、からくり太鼓時計をご存知ですか。朝8時～夜7時の毎正時、儀右衛門人形が出てきて自分の作品を紹介します。お茶を運ぶ人形や弓を引く童子などと共に蒸気船関連も、遊び心と実用の狭い交ぜ方を学びたいもの。（ひ）

◆大根の貨物駅は旅客駅から徒歩数十分。特に初めて訪れる先は、アクセスをよく確認して行かないと高い目に遭う。昼でも歌を歌いながら行程を楽しめる環境は、当然夜になれば人里離れたさびしい場所に変身する。遅くまで作業される皆さんの緊張が難しい理由のひとつかも。（ひ）

◆茶畑へ伸びる煙突とパイプラインの下で復活した専用線を撮る。わずか10年ほどで復活することを予測していたら、線路を削がしただろうか。専用線の取材では、消えた線路や痕跡だけを見ることも。鉄道輸送のメリット再認識の声が、これらの線路に、もう一度光を当てることになるか……。（ま）